

# 継続を求める会ニュース

2024年6月22日発行 第1号

## 「障害児通所支援利用者負担無料の継続を求める会」発足

### 代表挨拶

わたくしは、「障害児通所支援利用者負担無料の継続を求める会」の代表の鮫島と申します。現在、特別支援学校中学部の娘を持つ母親です。娘は、乳児の時から発達の遅れや育てにくさを感じており、2歳の時に児童発達支援（療育）につながりました。通い始めた時は、鹿児島市の独自助成があり、おかげさまで無料で通園できたという、ありがたい仕組みがすでにありました。娘とじっくり向き合おうと仕事を辞めたわたしにとって、療育は親子で安心して過ごせる居場所になっただけでなく、娘のありのままを受け入れることができ、心の底から愛おしいと思えるようになった場所でした。現在、娘は特別支援学校と放課後等デイサービスにお世話になり、様々な活動や体験を通して、友だちとつながる喜びや自分でできる世界が広がり、自信がつき、堂々と自分らしく日々を生きています。この通所支援を無料で受けられるのは、2003年の支援費制度導入により、それまで無料であった発達支援に「利用料」が発生した際、「支援を受けられない」親子が出てしまい、それに対して当時の県内の保護者や支援関係者が立ち上がり、願いや要求を粘り強く伝えていった結果であると聞きました。結果、鹿児島市は2007年4月より、「障害のあるすべての人が安心してサービスを受けられるために」と児童デイサービスⅠ・Ⅱの利用者負担の恒久的無料化を実施してくださっています。今日まで17年

間継続していただけていることに、心から感謝申し上げます。さて、今回、通所支援の利用料についての「独自助成の見直し（有料化）」が検討されていることを耳にしました。とても衝撃を受け、不安な気持ちでいっぱいになっております。周りの放課後等デイサービスに通う親たちからも、「何も知らない」「そうなっては通うことができなくなる」といった不安の声が上がっています。

今回学習をする中で、鹿児島市の利用者負担無料の取り組みは、子どもの権利条約に即した取り組みであり、また全国的にも先進的な素晴らしい取り組みであることを学びました。私たちが、安心の中で適切な支援を受け、子どもの未来に希望をもてる子育てができたように、これから先の子どもたちや親御さんたちも、今と同じように安心して子育てできることを強く、強く願ってやみません。そして、鹿児島市の利用料無料の取り組みは、素晴らしい取り組みであることをたくさんの人に知ってほしい、今までとかわらず多くの親子が救われていくように、今、私たちにできることは何か？という思いから、この会を発足いたしました。今後は、保護者の切実な声や署名を集め、鹿児島市にお届けしたいと思っております。どうぞお力をお貸してください。よろしくお願いいたします。

代表 鮫島 梨紗

## 障害福祉課に挨拶へ

2024年6月13日、会の発足のご挨拶に、代表鮫島（保護者）、顧問伊藤周平先生（鹿児島大学法文学部教授）、保護者5名、支援関係者9名で市役所へ伺いました。記者会見後、鹿児島市障害福祉課課長、自立支援係長にも挨拶に伺い、発足した経緯と、現在、通所支援を利用されている保護者の切実な声をお届けしました。

### 放課後デイなど無料化継続要望

市に保護者ら

障害児が通う放課後等デイサービス（放デイ）などの利用料を鹿児島市が支援し「無料化」している独自制度について、保護者らが13日、市役所を訪ねて継続を要望した一写真。市は昨年9月、財政面などの点から助成の在り方について検討する方針を示していた。

市障害福祉課によると、児童発達支援（児発）と放デイ利用は、国の制度では、全額公費の生活保護世帯と市民税非課税世帯を除き、利用者が1割負担する。負担上限は収入により月額4600円、3万7200円の2段階に分かれるが、市

は独自にこの分を助成している。市内の延べ利用者は2022年度、児発は3万7400人、放デイ3万8600人で13年度比でそれぞれ2.9倍、6.4倍に増加。独自支援の事業費は本年度、13年度の4倍に当たる約2億5000万円を見込む。



保護者らは6月上旬、「障害児通所支援利用者負担無料の継続を求める会」（鮫島梨紗代表）を発足させた。今後、署名を集める。（江口淳司）

南日本新聞（6月14日付）

## 市議会傍聴へ

6月17日、児童発達支援、放課後等デイサービスの利用者負担の見直しについて市議から市当局へ質疑されるということで、会員5名で市議会定例会の傍聴へ行ってきました。

## 署名よろしくお願ひします！

1枚につき5筆まで記入できます。また、メッセージ記入欄もありますので、想いや声を綴って頂けますと嬉しいです。

一次締め切り 7月末

## 今後の活動予定

- 7月22日(月) ~ 31日(水) 署名 第一次集約期間
- 8月初め 署名提出
- 8月31日(土) 署名最終集約
- 9月初め 署名提出

一緒に活動して下さる方、大歓迎です！  
連絡先  
090-7390-3057  
(求める会 携帯)

署名用紙  
できました！

目標  
10,000筆！

ワンコイン募金  
もお願いします  
(活動資金に使  
います)



ご存知ですか？

鹿児島市の児童発達支援・放課後等デイサービスは

# 市の独自助成により 利用者負担が無料で利用できます

## なぜ鹿児島市は独自助成の仕組みがあるの？

さかのぼること20年以上前、2003年の支援費制度導入により、それまで無料であった発達支援に「利用料」が発生。これまで発達支援を受けていた親子の中で、「支援を受けられない」親子が出てしまいました。



結果、鹿児島市は2007年4月より「障害のあるすべての人が安心してサービスを受けられるために」と児童デイサービスⅠ・Ⅱ（現在の児発・放デイ）の利用者負担の恒久的無料化を実施することとなりました。

そして今日まで17年間継続していただいています。



このような国の動きに対して、「どの子ども支援を安心して受けられるように」と当時の県内の保護者や支援関係者が、願いや要求を鹿児島市へ粘り強く伝えていきました。



この鹿児島市の取り組みは、子どもの権利条約が実現されたものであり、全国的にもすぐれた先進事例です。近年は、全国的にも鹿児島市と同じように無料化をうたう自治体もでてきています（鎌倉市、東京都千代田区）

保護者の声

現在、特別支援学校2年生の息子を持つ母親です。1歳半で療育につながりました。療育をすすめられた時は不安でいっぱいでした。診断がなくても受給者証を取れば療育を受けられる、そして無料で受けられるという鹿児島市の仕組みに背中を押され、支援があるなら私も頑張ってみようと思えたことを覚えています。療育に通い、息子は大好きな先生、お友だちと遊んだり、苦手なことにも挑戦する中で、勇気や憧れや願いを見つけ、「自分で自分を育てる力」を育んでいきました。放デイでは、その力を土台に様々な年齢の子たちと生き生きと関わっていて、驚くような成長をみせてくれ、息子も私たち家族も笑顔いっぱいです。もしあの時、療育に出会わなければ、今どうなっていたらと思うと、鹿児島市に療育があること、困った時にすぐ繋がれること、金銭負担の不安がないことは本当にありがたかったと思います。鹿児島市でこれから療育につながる子、今まさに放デイで成長発達力を育んでいる子たち、またその家族が安心して笑顔で暮らせるように、どうかこのまま利用負担は無料で継続していただきたいです。

## それが今、独自助成の見直し(有料化)が検討され始めています

え！？  
知らなかった…

今までできていたのに  
なぜできなくなるの？

有料になると、  
家庭の事情で  
利用を控える親子も  
でてくるかも…

学校になじめないけど、  
居場所になったのは、  
放デイだった。  
学校の出席扱いも  
してもらっている。  
子どもにとっては  
学校と同じ、  
自分の居場所です！

ひとりっこの我が子。  
あたしも夫も実家が遠く…  
いろんな人のつながりに  
親も子も支えられています



## 利用者負担無料の継続を！

子育てにやさしい街  
鹿児島市で  
いて下さい！

放デイは、放課後や長期休みに  
家では過ごせない我が子にとって  
重要な居場所です。学校と同じように  
義務教育と考えてほしいくらい  
大事な場所なんです

無料だからこそ  
早期発見・早期支援ができた。  
発達が気になったら、  
すぐ親にすすめられたのに、  
無料じゃなくなると言いにくくなる  
(保育園保育士)

シングルで子育て。  
これ以上負担が増えれば  
仕事を休まないといけない  
子どもを食わせていけない…

子どもが笑顔で通っています  
笑顔を守るためにも  
無料の継続をお願いします！

当事者の声抜きで  
検討をすすめない  
で！



3人の子どもがそれぞれ児童発達、放デイを利用しています。子どもたちが笑顔で過ごしていることが嬉しく、また無料で通えることにも感謝がありません。

物価高のため、食費や日用品の支出に頭を悩ませる中、利用料も自己負担となるととても困ります。収入をあげるため、親の就労時間を増やさなければならず、子育て“に費やす時間まで奪われるのではと懸念しております。

子どもが放デイにお世話になっている親としては、利用負担を求められれば、「いたしかたない…」との思いにもなります。でも、負担が発生する理由が、事業所が増えたからでは、納得できません。放デイは習い事と違い、発達に凸凹を持つ子どもにとって、生きる力を養う場であると感じています。それはサービスの提供ではなく、発達を保障される場だと自分は考えます。事業所が多くなること自体は悪いこととは思いません。実際、助かっていますが、増えすぎなら乱立のようにならないような別の方法や対策が必要ではないでしょうか。

## わたしたちの声を届けよう！



# 継続を求める会ニュース

2024年8月8日発行 第2号

日頃より、署名活動へのご協力ありがとうございます。6月下旬から署名活動を始め、1カ月が経ちました。皆さまのおかげで、ありがたいことに各所からお問合せやご協力をいただいております。本当にありがとうございます。今回は、この間の活動等をご報告いたします。

## 市へ第一次署名提出 10,763筆

署名活動の中間報告として、8月2日に市長宛として障害福祉課へ提出して参りました。一万筆を超える署名の重みと併せて、皆さまから頂いた想いや声も届けさせていただきました。今後も引き続き、署名に取り組んでいきます。どうぞご協力のほど、よろしくお願いいたします。



約1万人分の署名を、担当職員に手渡す保護者ら  
11月2日、鹿児島市役所

放デイの負担ゼロ  
継続求め署名提出  
保護者ら市に1万人分  
障害児が通う放課後等デ

ありがとうございます



南日本新聞（8月3日付）

イサービス（放デイ）などの利用料を鹿児島市が支援し「無料化」している独自制度について、保護者らでつくる団体が2日、支援継続を求める約1万人分の署名を下鶴隆央市長宛てに提出した。団体は「障害児通所支援利用者負担無料の継続を求める会」。鮫島梨紗代表らが市役所を訪ね、市内8150人分を含む1万763筆の署名を担当職員に手渡された。鮫島代表は「有料化されると経済的理由で通えない子どもが増えてくる」と訴えた。市内1万人、県内1万人を目標に8月末まで活動を続ける。市によると、児童発達支援（児童）と放デイ利用は、国の制度では、全額公費の生活保護世帯と市民税非課税世帯を除き、利用者が1割負担する。市は独自に負担上限額を助成し、利用負担をゼロにしているが、昨年9月、助成の在り方について検討する方針を示していた。（江口淳司）

## 寄せられた声

（一部ご紹介いたします）

こどもが小さい頃からお世話になっています。もしここに繋がらなかったら、今の私たちはいません。笑顔で過ごせるのは、児童発達支援、放課後等デイサービスのおかげです。

独自助成のおかげで、仮に私が障害児を産んだ時、育てやすい優しい環境になると思う。子どもは未来の世の中を担っていく存在なので、将来の鹿児島や日本のために独自助成の見直しはしないほしい（学生）

こどもに関わる様々な負担が軽減化している中で、社会の流れに逆行してしまうのでは、と思います。

見直しの理由が、事業所の「大幅な増加」とあるが、内容も見極めてほしい。療育が本当に必要な子どもたちが通えていない現実もあります。視点が違うと思う。

## 8/24一斉署名

以下の生協コープ店頭にて実施予定  
(10時～11時30分)

- ・玉竜店
- ・城西店
- ・吉野店
- ・宇宿店
- ・谷山店
- ・西陵店
- ・南谷山店

## 最終締め切り 8月26日

市への提出を9月初めまでに予定しています（日程は市と調整中）。署名がお手元にありましたら、受け取りに行きますので、電話またはメールでご連絡ください。もちろん、郵送でも構いません（郵送料は自己負担をお願いします）

## こどものえがおいっぱい！パネル展

8月1、2日に天文館図書館内ギャラリーにてパネル展を開催しました。ひとりでも多くの方に、通所支援への理解も広めたい思いから企画しました。

児発・放デイの日頃の活動の様子や子どもたちのいきいきとした笑顔を写真で展示し、また鹿児島市の療育の場作りについてのあゆみについてもご紹介しました。また、当日は天文館アーケードにて街頭署名も実施しました。当日お手伝いに来て下さった皆様、またパネル展・街頭署名に足を運んでくださった皆様、本当にありがとうございました。



来場者数 300名  
街頭署名数 300筆  
募金 25,000円  
ありがとうございます

## アンケートより

こどもたちの笑顔がいいですね！

日頃の生き活きと生活している様子が写真からリアルに伝わってきました。なかまと一緒に取り組んでおり、その営みがひとりひとりの未来につながる原動力ではないかと思いました。

今回、はじめて鹿児島での療育、みなさんの努力を知りました。感動します。

地域の中でのびのびと活動されている姿に感動しました。笑顔で通える場がいつまでもあってほしいと思います。

## 鹿児島大学にて講義

鹿児島市における障害児通所支援の歴史や児童発達支援・放課後等デイサービスについて、お話をさせていただきました。療育のこと、鹿児島市の取り組みなど学生さんに知っていただく機会となりました。

## 市議会ロビー活動

7月29・30日に市会議員の皆さんに会の活動について資料をお渡ししました。数名の市議さんと直接お話することもでき、貴重な時間となりました。

オンライン署名  
はこちらから↓



パンフレット  
できました



今後の  
活動予定

8月26日(月) 署名最終締め切り

集約

署名提出

9月初め

障害児通所支援利用者負担無料の継続を求める会

【事務局】〒892-0871

鹿児島市吉野町5916-1 学童支援ゆめの樹内

TEL: 090-7390-3057 (鮫島) / Fax: 099-248-3057

Mail: yumenoki@muginome-fukushi.or.jp



# 継続を求める会ニュース

2024年9月3日発行 第3号

## 市へ最終署名提出 **22,446筆**

市内 14,876筆 市外・県外 7,570筆  
(他. オンライン署名 146筆)

最終報告として、9月2日に市長宛に障害福祉課へ提出して参りました。8月2日以降、11,683筆(市内6,726筆、市内・県外4,957筆)集まり、目標としていた2万筆を超える数をお届けしました。また、保護者からのメッセージも合わせてお伝えし、今回の署名活動を通して、見えてきた課題や提言もさせていただきました。

今回は市長との面会は残念ながら叶いませんでしたが、福祉課課長、係長が日程調整に最後まで動いてくださったということでしたので、非常にありがたい気持ちでいっぱいです。わたしたちの活動や署名についても市長へ逐一報告していただいているとのことでしたので、ぜひ市長のお考えも直接お聞かせいただきたいとお願いするお手紙もお渡ししてきました。

右記にもありますように、独自助成の在り方についての検討は継続するとのことでしたが、わたしたちの願いとしては、障害児通所支援の恒久無料化の実現でありますので、引き続き、市の動きも見させていいただきながら自分たちも活動を続けていきたいと思っております。

今回の署名では、多くの皆様のご理解、ご協力を頂戴しました。皆様からいただいた声、ひとつひとつ拝見し、また直接いただいたお言葉からも胸が熱くなる思いでした。本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

障害があってもなくても、子どもたちが安心して過ごせる社会になるよう、行政へお願いしながらも、わたしたちもできることを一緒に考え、取り組んでいきたいと思っております。



## 障害福祉課への質問

**Q** 昨年9月の防災福祉子ども委員会では、障害児通所支援の独自助成の見直し(有料化)について、来年9月の市議会で一定の方向性を報告するとありました。明日から始まる市議会では、何かしらの方向性を報告しますか？

**A** まずは沢山の署名の声をしっかりと受けとめたいと思います。署名をいただくという状況があるということ、色々な所からご意見をいただいている状況であることから、9月市議会で何かしらの方向性を出す段階には至っていないという風に考えておりました、引き続き検討をして参りたいという状況でございます。

**Q** 検討は続けていくということでしょうか？

**A** そういうことです。

**Q** 有料化になる可能性も今後まだないとは言えないということでしょうか？

**A** 有料化するかどうかも含めて、在り方を検討していくという段階でございますので、今この時点で「こうなります」と言うのが、申し訳ないのですが言える状況ではないということでご理解いただければと思います。

**Q** 事業所数は多いが、支援が必要な子に行き届いていなかったり、質のばらつきがあるとの声が多くきかれました。また、有料化することで質の担保が保たれるという考えもあるようですが、親の立場からすると療育につながることで精いっぱいであり、転園するのも非常に労力のいることです。毎日の生活に気を張り詰めている保護者にその責任を負わせるのは違うように思うのですが？

**A** 質の担保も問題となっている話をききます。有料化したら質が担保されるという話は同じではないと認識しています。質の担保については、市の独自の政策や国のガイドライン、評価制度などの仕組みができておりますので、しっかりと注視しながら、市の独自の取り組みなどしっかり活用しながら取り組んでいきたいと思っております。

適切な療育がなされているかにつきましては、監査がありますが、機会を通じながら集団指導や研修の場がありますので、適正な療育についてしっかりと指導していきたいと思っております。

ありがとうございます



障害児通所支援利用者負担無料の継続を求める会

【事務局】〒892-0871 鹿児島市吉野町5916-1 学童支援ゆめの樹内

TEL : 090-7390-3057 (鮫島) / Fax : 099-248-3057

Mail : yumenoki@muginome-fukushi.or.jp